

シリーズ6

内閣総理大臣を覚えよう！（１）

あなたは、日本史のどの時代が得意ですか？

もし、あなたが「近現代史」と答えるなら、勉強が進んでいるのではないのでしょうか。でも、あなたが現役生なら、「近現代史が得意」と答えられる人は少ないと思います。近現代史は最近勉強したばかりなので、復習やアウトプットがあまりできていないからです。また、それ以前の歴史に比べ、かなり細かいことまで問われることになり、事件名や人名だけを丸暗記するような勉強では太刀打ちできないからです。逆に言えば、**近現代史をマスターすれば合格圏内に近づくことができるのです。**

明治以降は、特に内閣制度ができて以降は、内閣総理大臣をしっかりと頭の中にたたき込み、**内閣史**を中心に政治や経済、外交史を肉付けしていくのが一番整理しやすく、従って覚えやすいと言えます。

ですから、内閣総理大臣の名前を順番に覚え、それぞれが何をしたのか、その内閣の時代に起きた出来事は何なのか、などをしっかりとおさえていきましょう。

下記に明治時代の総理大臣を順番に列挙しています。（１）～（１５）に入る総理大臣名を答えましょう。ちなみに、明治の総理大臣は１４代までありますが、実際には７人しかいません。**第１４代西園寺公望**の時に大正に変わりますが、チャンク（かたまり）で覚えた方が良いでしょう。桂太郎も「明治の内閣」にまとめてあります。

第１代から第７代の内閣は、長州と薩摩の２大藩閥のリーダーが交互に首相をつとめた時代です。ただ、日清戦争を契機に、それまで帝国議会で「経費節減」「民力休養」を唱えて藩閥内閣に抵抗していた民党（自由党や進歩党）は、しだいに内閣の軍備拡張を支持し、藩閥内閣の方も戦後経営をスムーズに実行するため民党に協力を得る姿勢を示すようになりました。

１８９８年に登場した**第１次大隈重信内閣**は「日本で初めての政党内閣」として位置づけられています。しかし、旧自由党系・旧進歩党系のポスト争いなどによる内部分裂により、帝国議会を経験せずに退陣します。藩閥政治家のうち**伊藤博文**は政党の存在を重視し、**旧自由党系（憲政党）をもとに立憲政友会を結成**します。しかし、対照的に**山県有朋**は政党を敵視し、**文官任用令改正・軍部大臣現役武官制**などによって政党の弱体化をはかっていきました。

明治最後の約１０年間（しかも２０世紀最初の約１０年間）は、山県有朋系の**桂太郎**と立憲政友会を継承した**西園寺公望**の両者が交互に政権を担当した「**桂園時代**」でした。

明治時代の内閣総理大臣

「いくや まいまい おやい かさかさか」

- 第1代→(1)(第1次)1885.12～、長州
86年：学校令、87年：三大事件建白運動、保安条例公布
- 第2代→(2)1888.4～、薩摩
89年：大日本帝国憲法の発布、超然主義演説
大隈重信遭難事件で10月に首相辞任、内大臣三条実美が一時首相兼任
- 第3代→(3)(第1次)1889.12～、長州
90年：第1回帝国議会→主権線・利益線の演説、教育二関スル勅語発布
- 第4代→(4)(第1次)1891.5～、薩摩
91年：大津事件、樺山海相の蛮勇演説
92年：第2回衆議院議員総選挙で選挙大干渉
- 第5代→(5)(第2次)1892.8～、長州、のち自由党と提携。
93年：天皇の詔勅で軍艦製造の予算が可決
94年：日英通商航海条約、甲午農民戦争→日清戦争、95年：下関条約
- 第6代→(6)(第2次)1896.9～、薩摩、進歩党と提携
97年：貨幣法—金本位制の確立
- 第7代→(7)(第3次)1898.1～、長州
98年：地租増徴案が否決され、退陣
- 第8代→(8)(第1次)1898.6～、肥前、憲政党(隈板内閣)、日本初の政党内閣
98年：共和演説事件—文相・尾崎行雄が辞任
- 第9代→(9)(第2次)1898.11～、長州、藩閥・陸軍軍人
99年：文官任用令改正、1900年：軍部大臣現役武官制、治安警察法
- 第10代→(10)(第4次)1900.10～、長州、立憲政友会(1900年9月結成)
00年：義和団の乱→北清事変
- 第11代→(11)(第1次)1901.6～、長州・陸軍(山県系)
01年：北京議定書、02年：日英同盟協約
04年：日露戦争(～05)、日韓議定書、第1次日韓協約
05年：ポーツマス条約、第2次日韓協約→統監府設置
- 第12代→(12)(第1次)1906.1～、公家・政友会
06年：日本社会党結成を承認(翌07年、解散命令)、鉄道国有法
07年：第3次日韓協約
- 第13代→(13)(第2次)1908.7～、長州・陸軍、のち政友会と提携
08年：戊申詔書、10年：韓国併合、大逆事件、11年：税権回復
- 第14代→(14)(第2次)1911.8～、公家・政友会
12年：「大正」に改元、中華民国成立→二個師団増設問題
→上原勇作陸軍大臣による帷幄上奏→西園寺内閣総辞職

-
- 第15代→(15)(第3次)1912.12～、長州・陸軍
13年：第一次護憲運動で総辞職(大正政変)

(1) 伊藤博文	(2) 黒田清隆	(3) 山県有朋	(4) 松方正義
(5) 伊藤博文	(6) 松方正義	(7) 伊藤博文	(8) 大隈重信
(9) 山県有朋	(10) 伊藤博文	(11) 桂太郎	(12) 西園寺公望
(13) 桂太郎	(14) 西園寺公望	(15) 桂太郎	